

理事会・総会の開催

2026年6月26日、第35回理事会および第26回総会を開催しました。役員選任をはじめ、2025年度事業・決算報告、2026年度事業計画・予算などが審議されました。国連ハビタット福岡本部から石垣和子本部長が出席され、国連ハビタット福岡本部の活動報告や当協会との今後の協働について意見交換が行われました。国連ハビタットは気候変動に対応した強固なまちづくりを推進しており、来年横浜にて開催される「GREEN×EXPO2027」に出展するため、運営の協力についても話し合われました。



東京プラットフォーム

昨年国連ハビタットが新たに官民連携プラットフォーム「アジア太平洋地域の持続可能なまちづくりのためのプラットフォーム」を立ち上げました。6月9日、虎ノ門ヒルズフォーラム 5F ホールAにて、国連ハビタット主催「東京プラットフォーム第3回ネットワーク・セミナー」が開催されました。多くの企業や団体が参加し、企業がこれまで培った技術や知見を海外展開するにあたり、国連ハビタットのネットワークを活かして進めていこうという話が活発に取り交わされました。



HABITAT 日本ハビタット協会

まちづくり通信 No. 49

日本ハビタット協会は、国連ハビタットと共に世界中の人々が安全で安心して暮らせるまちづくりを推進しています

設立から25年を経て

マリ・クリスティヌ



日本ハビタット協会は2001年3月に創立しました。その目的は、国連ハビタットが実施している人間居住問題に関する取り組みを広報し、支援を行うと共に、国際協力の重要性を多くの方々に認識していただくことです。今年で設立から25年となります。最初は任意団体として出発し、2002年にはNPO法人を取得、さらに2010年からは認定NPO 法人の認証を受け、事務局も事業も拡大し現在に至っています。

この間、国連ハビタットの実施する事業の広報や支援として、アフガニスタンでの紛争後のまちづくり事業、スリランカでのスマトラ沖地震津波後の復興支援事業、パキスタンやミャンマーでの災害復興のまちづくり事業等に力を尽くしました。加えて日本ハビタット協会の自主事業として、ラオスでの学校と村の衛生設備改善、給水のための植林、東日本大震災復興支援、熊本地震復興支援、能登半島地震復興支援等を継続的に行い、現在はケニアでの衛生設備事業と女性のエンパワメントの事業を実施しています。

ラオスの事業では、5年間で北部ルアンプラパン地域の約160haの土地に64,000本を超える植林を行い、さらに発展させながら、現在はこれらの地域で深刻化しているごみの課題に取り組んでいます。ケニアでは、西部ホーマベイ郡の63村の6,500世帯の家に手洗い設備付きのトイレを設置することができました。ほとんどの家庭にトイレができたことで、村人の下痢の罹患率が73%も減少しました。昨年の国連の発表によると、いまだに世界人口の3人に一人はトイレや手洗い施設を持っていないということですから、この事業は素晴らしい結果をもたらしたと自負しています。

現在は同じケニアの地域で女性のエンパワメントを目的とした生理環境改善プロジェクトを実施しています。ケニアでは、国の半数以上の女性が生理の時にナプキンを手に入れることができません。代替品としてぼろ布などを使用していますが、外出も控えなければならず、女子中学生が教育からドロップアウトしていく大きな原因にもなっています。この問題を解決するため、女性たちが布ナプキンや下着の製作、農業の改善、石けんづくりなどを実施し、自分たちで使うだけでなく販売もし、そこで培った技術を多くの女性たちに伝えていくというプロジェクトです。ケニアの女性たちは現在、この活動で得た収入を自分で管理しています。収入を自分で管理することで、貯金を始めたり、子どもの栄養改善や就学率の向上などを実現しています。女性たちは生理の課題の克服にとどまらず、自分の頭で考え、村や家族が良くなるように動き始めています。この事業の今後が楽しみです。

このように25年間様々な事業を実施してくる中で、ほんの少しお手伝いをする事で人々の暮らしが確実に良い方向に向かっていくことを、ハビタットの活動の中で私は何度も実感してきました。

このような実のある事業を展開することができたのは、支援して下さる皆様のお陰です。私たちは引き続き様々な形で支援事業、広報事業を展開して参ります。どうぞこれからもご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

ハビタットクイズ?!

外国のコインの中には世界遺産をデザインに使っているコインがあります。次に挙げる世界遺産はどここの国の世界遺産でしょうか？ A～Eの中から選んでください。

世界遺産

- ① モン・サン=ミシェル
- ② ナスカの地上絵
- ③ 万里の長城
- ④ ギザのピラミッド
- ⑤ イエローストーン国立公園

どこかな？

国名

- A エジプト
- B 中国
- C フランス
- D アメリカ
- E ペルー

ご協力いただきありがとうございます

2025年12月1日～2026年5月31日
(敬称略・順不同)

みなさまのご支援ご協力により、多くの国と地域において、まちづくり事業を実施することができています。心から感謝申し上げます。

会費 三島 康雄、中村 幸子、新聞 文彬、丹波 佐和子、藤本 貴也、小林 一、水上 美佐子、宮本 知枝、濱口 吉右衛門、山本 頼永、白澤 和子、寺嶋 恵子、橋本 久美子、中村 勇、与野 珠美、大島 政子、山村 より子、山際 則子、篠原 大作、若林 陽介、下村 政裕、錫切 順子、橋本 千晶、山本 博子

賛助会員 佐々木 節子、大隅 道子、上山 佳彦、土屋 嘉克、竹崎 勲

ご寄附 SI- 長崎ガーランド、青木 浩孝、渡邊 きぬ子、兼平 剛志、虎川 清子、木下 良太、丹波 佐和子、山本 頼永、朝妻 幸雄、野田 泰子、佐々木 佳代、橋本 久美子、中村 昌広、中村 勇、米澤 豊、新井 てつお、下村 政裕、福迫 隆、大塚 麻貴子、山際 則子、錫切 順子、星田 敦子、(株)新橋スタンプ商会、ハビタットフレンズ仙台

マンスリーサポーター 大下 悟、岡田 耕造、古庄 弘美、下村 政裕、篠原 昭子、篠原 大作、清水 雄二、藤田 美江子、美甘 政門、三島 康雄、山本 博子、山本 嘉彦、岡部 正、橋本 政和、鶴見 和代

切手・書き損じハガキ、外貨等 JSCO、東京国際空港ターミナル(株)、日本コンテナ輸送(株)、(株)日本海洋科学、NS ユナイテッド海運(株)、(株)ホンマ、NYKバルクシップパートナーズ(株)、旭海運(株)、木下の介護ライフコミュニケーション希望が丘、ハビタットフレンズ仙台、西大寺北向日地蔵尊世話人会、認定 NPO 法人 SOS こどもの村 JAPAN、太宰府天満宮、入江 衣江、田路 あつ子、鶴見 和代、木村 篤史、上原 里美、川崎 伸子、錦織 葆、佐々木 節子、新谷 敦子、野口 智子、武田 隆、海老原 信良、細川 敦子、桑野 みずほ、渡邊 きぬ子、山際 則子、梶原 英子、石川 明美、福岡 慶子、岡田 仁子、山脇、小林、江尻

ご協力いただいた方及び団体 国連ハビタット福岡本部、国連ハビタット福岡本部協力委員会、福岡県、東京福岡県人会、国際協力機構(JICA)、ユニ・チャーム(株)、(株)LIXIL、アクセンチュア(株)、長崎大学、エイズ孤児支援 NGO・PLAS、SATREPS、ワールド・ビジョン・ジャパン、男女共同参画センター横浜南フォーラム南太田、フェリス女学院大学、横浜市立大学、(株)東急エージェンシー、(株)EMA、(一財)CSO ネットワーク、朝日新聞 with Planet、(農)シャン・ドゥ・ミュリエ、(株)藤崎、(株)日影茶屋、(株)フランドール、本能実(wara no bag)、こどもの夢ネットワーク、せんだい農業園芸センターみどりの杜、松崎桑葉ファーム、瀬戸珈琲(同)、重蔵神社、(株)エイチアールディー、(株)新橋スタンプ商会、(公社)日本フィランソロピー協会、千代田区社会福祉協議会、ちよだボランティアセンター、半蔵門駅前郵便局、麴町郵便局、九段郵便局、エクスチェンジャーズ、インターバンク、アジアの女性と子どもネットワーク、ハビタット福岡市民の会、ボランティア・ハビタットフレンズの皆様

コイン仕分けにご協力いただいた企業・学校 (株)ジェシービー、NS ユナイテッド海運(株)、(公財)東京都つながり創生財団、サノフィ(株)、(株)電通

募金箱設置にご協力いただいた企業など 成田国際空港(株)、(株)NAA リテイリング、東京国際ターミナル(株)、北海道エアポート(株)新千歳空港事務所、中部国際空港(株)、関西国際空港(株)、福岡国際空港(株)、長崎空港ビルディング(株)、博多港開発・西部ガス共同事業体、那覇空港ビルディング(株)、逗子市民交流センター、(株)新橋スタンプ商会、(有)岩田時計店、AOKI、珈琲店ストーンズ

⑤ ④ ③ ② ① : 世界の文化遺産

発行：認定NPO法人 日本ハビタット協会 (発行責任 篠原大作 / 編集責任 山本 博子)

〒102-0092 東京都千代田区隼町 2-12 藤和半蔵門コープ 103 号 TEL / FAX : 03-3512-0355

E-mail : info@habitat.or.jp / URL : <https://www.habitat.or.jp>

2026年7月発行



ケニア 生理環境改善による女性のエンパワメント

ケニアの少女と女性たちが自身の能力を発揮できない要因として、月経衛生対処、児童婚や若年妊娠、女性性器切除（FGM）、ジェンダーに基づく暴力（SGBV）などがあります。当協会は、ケニア西部ホーマベイ郡でJICA草の根技術協力事業として「生理環境改善による女性のエンパワメント事業」を実施しています。年間30村と8校を対象に、ケニアの少女と女性が適切な月経衛生対処を行える環境を整え、教育や社会参画の機会を増やすとともに将来的な経済的自立につながるよう支援しています。



村人の理解を深める継続的な活動

男女の相互理解と支え合えるコミュニティづくり

ケニアでは性や生理に対する偏見、タブー視される風潮があるため、それらについて大っぴらに語られることはあまりありません。学校で学ぶ機会もないため、ほとんどの少女や女性は適切な月経衛生対処についての正しい知識がありません。そこで、適切な知識と技術を学ぶレクチャーやワークショップを開催しています。

さらに、地域に根付いている偏見や風習を変えていくため、女性や生理に関する国際デーに合わせて、啓発活動キャンペーンを行っています。人々の意識を変えていくには時間がかかりますが、こういった啓発活動が地域全体の意識を変えていくきっかけとなり、男女相互の理解、思いやりと助け合いのあるコミュニティがつくられていけばと願っています。



意識変化を学校教育の現場から

国際女性デー2026

毎年3月8日は「国際女性デー（International Women's Day）」で、2026年のテーマは「Give To Gain」でした。600名を超える住民が参加しました。女性だけでなく男性も多く参加し、生理用品の使い方のデモンストレーションなどを通して、生理だけでなく女性の権利や教育、社会参加について考える機会となりました。また、現地テレビ局「NTV Kenya」のニュースに取り上げられ、多くの人の目に触れました。

世界月経衛生デー

5月28日の「世界月経衛生デー」を記念して啓発活動キャンペーンを実施しました。今回のテーマ「"Together for a #PeriodFriendlyWorld"」だったので、これに合わせて「#PeriodFriendlyKenya」を掲げてみました。本番前日に街宣車による告知を行ったことで、当日は学校、行政機関、協力団体から540名程が参加しました。

女性グループによる生理について考える寸劇にはじまり、生理用品の正しい使用と廃棄方法のデモンストレーション、月経に関する偏見と差別をなくすためのディスカッション、当協会の生理プロジェクトに参加している女性達の体験談などを通して、適切な月経衛生対処が少女と女性にとって大切であること知ってもらう機会となりました。



バナナの栽培講習会

女性の経済的自立にむけて

女性が自らの意志で人生を選択し、社会のさまざまな分野で能力を発揮していくためには「経済的な自立」が課題となります。当協会の事業では、適切な月経衛生対処による社会参画の機会の創出だけでなく、農業技術や生理用品作成トレーニングを通じて女性の所得向上に取り組んでいます。農作物や手作り石鹸などを販売し、その売り上げを女性が中心となって管理することによって、必要な生活用品や貯蓄に使えるようになっています。

自分たちの
未来は自分たちで
変えてゆく。



イベントに参加する男性住民



生理を考えるために行われた寸劇



企業や団体と協働して進める活動

企業との共創によるまちづくり

世界課題が複雑多様化する中、国際協力分野で重要視されているのが、企業との「共創」です。日本企業が有する商品とサービスはコミュニティ発展をさらに促進するものとなり得るため、草の根レベルで活動し地域のネットワークを有するNGOと企業が協働することで、大きなシナジー効果を生み出します。本事業では、ユニ・チャーム(株)と豊田通商(株)の合併会社「Sofy East Africa Limited」がアフリカ向けに開発した生理用ナプキンブランド『Sofy（ソフィ）』の導入を進めています。さらに、企業だけでなく大学や男女共同参画センターなどさまざまな団体との協働を進めています。



ラオス コミュニティベースのゴミ分別とリサイクル

日本ハビタット協会は、都市の発展に伴い深刻化するごみ問題の解決に向けてコミュニティベースでのゴミ分別とリサイクルシステム構築事業を実施してきました。学校ではしっかりとごみ分別が行われ、リサイクル活動から収入を得られるようになり、活動が継続して行われるようになりました。



美しい街を
これからもずっと
美しくしよう！



ラオスからメッセージ … 北部農林大学ソンボーン先生

不安定な世界情勢が与えた暮らしへの影響

新型コロナ禍以降、自国通貨であるキープが急落しインフレが急加速しました。生活用品を隣国からの輸入に頼っていて、ガソリン価格の高騰によって、全ての品物の値段が驚くほど上がりました。

ラオス経済の悪化は、特に地方都市や農村地域の子どもの教育環境にも大きな影響を与えています。お金に余裕のある家庭のみ大学に進学でき、ほとんどの子が高校を卒業後に働き始めます。複数の子どもがいる家庭では、下の子は進学がとても難しい状況です。実際、私たちの大学の学生数も激減しました。観光都市として発展しているルアンパバーンや首都ビエンチャンではレストランやゲストハウスが栄え、賃金もそれなりに良いため、働く子が多いです。給料がさらに良いタイや中国、ベトナム、香港などに行く若者もいます。



校内菜園で給食の野菜を育てる子どもたち

子ども達を育む環境づくり

子ども達にとって教育はとても大切なため、学校はもちろん家庭の経済状況の改善が必要です。また、子ども達の栄養状態も良いとは言えないため、栄養改善のための学校給食の提供も効果的です。これまで日本ハビタット協会が行ってきた環境保全事業の経験を活かして、生ごみからのコンポスト生産やそれを活用した校内菜園、収穫した野菜の学校給食への活用などを行いたいと考えています。

他県では農業を使った大規模農業が行われるようになりましたが、持続的な土地活用の観点から望ましくありません。また、気候変動により収穫できる農作物も変わってきていますので、私たちの農業大学のノウハウを活かしながら進めていきたいと思っています。



水をかけ合い祭りを楽しむ市民

ラオスの正月

ラオスの正月（ピー・マイ：Pi Mai）は、4月14日から16日の3日間となっています。各地で正月を祝う催しが行われますが、古都ルアンパバーンではさまざまな催しが行われるため、国内はもちろん海外からもとても多くの人が訪れます。

水かけ祭りと言われるほど、街中で水鉄砲やバケツ、ホースなどを使った水かけが行われます。水をかけ合うことで旧年の汚れ・悪いことを綺麗に洗い流し、新年の幸運を願うという重要な意味合いがあります。水かけやパレードなど賑やかに楽しむ祭りの要素はありますが、宗教的にもとても重要な日となります。普段は王宮博物館の敷地内の祠に安置されている「パバーン仏」がワット・マイに渡御され、人々は仏像を清めるための水や花・ろうそくを持って正装で参詣します。



ラオスの人々にとって重要な宗教行事

能登半島地震・豪災害支援

2026年3月に「わじまミドリ保育園」と「かわい保育園」で行われた卒園式に合わせて、卒園児計36名の卒園アルバムを支援しました。さらに、入園や進級する子ども達が安心して園生活を送れるよう、「海の星幼稚園」には感染症の予防として子ども達が遊ぶ大部屋用の加湿空気清浄機を届けました。

石川県穴水町の児童養護施設「あすなろ学園」では、4名の若者が進学や就職により一人暮らしをするようになったため、新生活を送る上で必要な家電を支援しました。冷蔵庫や掃除機、電子レンジ、テレビなど各々が必要なものを選んでもらいました。